

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 外部評価結果報概要表

## 【評価実施概要】

|       |  |
|-------|--|
| 事業所番号 | 2971800038                             |
| 法人名   | 川西町                                    |
| 事業所名  | めくもりの郷グループホーム                          |
| 所在地   | 奈良県磯城郡川西町大字吐田94番地<br>(電 話)0745-42-2850 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク          |
| 所在地   | 奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号                  |
| 訪問調査日 | 平成20年8月6日                              |

## 【情報提供票より】(平成 20年 7月 25日事業所記入)

### (1)組織概要

|       |                 |                       |       |
|-------|-----------------|-----------------------|-------|
| 開設年月日 | 平成 12 年 7 月 1 日 |                       |       |
| ユニット数 | 1 ユニット          | 利用定員数計                | 9 人   |
| 職員数   | 8 人             | 常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 | 7.3 人 |

### (2)建物概要

|      |         |       |
|------|---------|-------|
| 建物構造 | 軽量鉄骨 造り |       |
|      | 1 階建ての  | 1 階部分 |

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |                 |                |          |
|---------------------|-----------------|----------------|----------|
| 家賃(平均月額)            | 20,000 円        | その他の経費(月額)     | 15,000 円 |
| 敷 金                 | ○有( 60,000 円) 無 |                |          |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有( 円)           | 有りの場合<br>償却の有無 | 有/無      |
| 食材料費                | 朝食              | 円              | 昼食 円     |
|                     | 夕食              | 円              | おやつ 円    |
|                     | または1日当たり        |                | 780 円    |

### (4)利用者の概要( 7月 1日現在)

|       |           |      |      |    |      |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 9 名       | 男性   | 2 名  | 女性 | 7 名  |
| 要介護1  | 2 名       | 要介護2 | 6 名  |    |      |
| 要介護3  | 1 名       | 要介護4 | 名    |    |      |
| 要介護5  | 名         | 要支援2 | 名    |    |      |
| 年齢    | 平均 88.2 歳 | 最低   | 83 歳 | 最高 | 95 歳 |

### (5)協力医療機関

|         |        |
|---------|--------|
| 協力医療機関名 | 川西町医師会 |
|---------|--------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、事業主体が川西町で、運営を社会福祉法人に委託しているものである。大和川の堤防のすぐ横にあり、周りに田畑もあって、四季折々の風景を楽しむことができる。広い同じ敷地内に、町の障害者施設やデイサービス、社会福祉協議会などがある。ホーム内は天井も高く広々としており、すっきりとして清潔感がある。町と運営する法人との連携もよく、利用者を大切にしたりとも家庭的で暖かい雰囲気があり、利用者や家族の評判もよい。外部評価や自己評価を意義を理解し、職員全員で改善に向けてよく努力している。

## 【重点項目への取り組み状況】

|       |  |
|-------|--|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前々回の改善課題であった「玄関前にホームの看板づくりとわかり易い理念の工夫」については、昨年に続きホームの看板を整備し、訪問者の見やすい位置に事業所独自の理念を掲げて改善されている。また、前回の改善課題であった「利用者と医師との緊密な関係作り」に関しては、利用者の受診は基本的に家族が付き添い、受診後結果を詳しく報告してもらい、記録することによって改善を図っている。</p> |
|       | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で自己評価を行い、みんなで気が付いたところを具体的に話し合っ改善に向けて意欲的に取り組んでいる。</p>   |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に一回、運営推進会議を持っている。参加者は、地域包括センター職員、自治会長、家族代表、管理者で、地域や施設の現況と課題などについて話し合っている。地域包括センターが主催する介護予防講座に参加できるようになった。災害発生時の自治会の協力が確認された。</p>   |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に意見箱が置かれているが、面会時に直接家族から伝えられることが多い。年一回の家族会では、食事会の前に職員との意見交換が行われ、その記録も残され、運営に活かされている。センター方式のアセスメントシートを用い、本人や家族の思いの把握に努めている。</p>  |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>まわりは田畑ですぐ近くに民家がないが、畑の人と挨拶を交わし、野菜をいただくこともある。毎月、三味線や踊りなど多くの地域ボランティアが来訪している。デイサービスとの合同行事も多く、地域の人とも交流を深めている。町の文化会館での行事にも参加している。</p>   |

## 2. 外部評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| <b>I. 理念に基づく運営</b>    |    |   |   |      |                                   |
| 1. 理念と共有              |    |   |   |      |                                   |
| 1                     | 1  | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 4項目の事業所独自の理念があり、玄関の受付のところに掲示されている。その中に「地域に溶け込み、親しまれる施設をつくります。」という項目がある。                           |      |                                   |
| 2                     | 2  | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 職員は毎朝理念を唱和すると共に、理念を意識して日々の仕事に取り組んでいる。玄関に掲げてある理念は、もう少し文字が大きい方が見やすいと思われる。                           |      |                                   |
| 2. 地域との支えあい           |    |   |   |      |                                   |
| 3                     | 5  | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | まわりは田畑ですぐ近くに民家がないが、畑の人と挨拶を交わし、野菜をいただくこともある。毎月、老人会や民生委員など多くの地域ボランティアが来訪している。また、町の文化会館での行事にも参加している。 |      |                                   |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |   |   |      |                                   |
| 4                     | 7  | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 自己評価は、基本的に職員全員で行ってまとめている。評価によって指摘された課題は、職員で話し合っ改善に取り組んでいる。  |      |                                   |
| 5                     | 8  | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一回、運営推進会議を持っている。参加者は、地域包括支援センター職員、自治会長、家族代表、管理者で、地域や施設の現況と課題などについて話し合っている。                    |      |                                   |

| 外部              | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                     |
|-----------------|----|---|---|------|---|
| 6               | 9  | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                              | 行政が事業主体で、社会福祉法人に運営を委託される形で行われているので、行政との連携は蜜で、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。                           |      |   |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |   |   |      |   |
| 7               | 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている                             | 面会が多く、日頃の様子は面会時や電話連絡で伝えることが多い。金銭出納帳には、領収証を添付しきっちり管理されている。また、面会時に確認してもらい、日付やサインも頂いている。       |      |   |
| 8               | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                               | 玄関に意見箱が置かれているが、直接利用者家族から伝えられることが多い。年一回の家族会では、食事会の前に職員との意見交換が行われ、その記録も残され、運営に反映されている。        |      |   |
| 9               | 18 | ○有( 60,000 円) 無<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 年1回法人内で異動があるが、あまり大きな変化はない。長く勤めている職員が多く、同じ敷地内にあるデイサービスの職員とも、行事などで顔馴染みである。異動がある場合は、個々に配慮している。 |      |   |
| 5. 人材の育成と支援     |    |   |   |      |   |
| 10              | 19 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている             | 1・2ヶ月に一回、法人主催の研修会が行われている。研修当日夜勤者以外全員参加し、職員全体のレベルアップがなされている。また、外部研修に参加したときは、毎月の全体会議で報告している。  |      |   |
| 11              | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている   | 同じ法人内の特養やデイサービスとの交流はあるが、他のグループホームとの交流はない。   | ○    | 他のグループホームの見学や職員交流、また行政が運営主体でもあるので、相互受入れをしている隣接の市町村のグループホームとの交流も期待したい。 |

| 外部                                 | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                        |
|------------------------------------|----|--|---|------|---|
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>         |    |  |   |      |   |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応          |    |  |   |      |   |
| 12                                 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居時までには、ほとんどの人が同じ敷地内のデイサービスを利用していることが多く、職員も顔馴染である。今後は、ショートステイも考えている。                            |      |   |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援          |    |  |   |      |   |
| 13                                 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                       | 食事の後片づけやトレイ拭き、洗濯物干しやたたみ、畑の野菜の水やりや収穫など、利用者のできることを手伝ってもらっている。                                     |      |   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |  |   |      |   |
| 1. 一人ひとりの把握                        |    |  |   |      |   |
| 14                                 | 33 | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 日々の生活の中で、本人の思いや意向を把握する努力をしている。面会時には家族からも意向を聞いている。また、センター方式のアセスメントシートを利用し、本人や家族の思いのさらなる把握に努めている。 |      |   |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し     |    |  |   |      |   |
| 15                                 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している        | センター方式のアセスメントシートを活用し、利用者や家族の意向を充分踏まえて、利用者本位の介護計画を作成する努力をしている。                                   |      |   |
| 16                                 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している    | 利用者に変化がある場合は、モニタリングの後、ケア会議で介護計画の見直しが検討される。ただ、計画の有効期限が2年で、変化がない人は、検討された記録がない。                    | ○    | 利用者に変化がなくても、半年に一回は介護計画の評価を行い、検討した日付や家族の了解を記録されることが望まれる。 |

| 外部                                 | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                 |
|------------------------------------|----|---|--|------|---|
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>           |    |   |  |      |   |
| 17                                 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                             | 同じ法人の老人ホームやデイサービスと合同で、いろいろな季節行事を行っている。地域包括支援センターが主催する介護予防の講座にも参加している。利用者や家族のニーズを考え、ショートステイも検討している。 |      |   |
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b> |    |   |  |      |   |
| 18                                 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | 家族が付き添って、それぞれの利用者のかかりつけ医に受診している。受診後は、家族から受診結果を報告をしてもらい、記録してその後のケアに活かしている。                          |      |   |
| 19                                 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | ターミナルケアの研修は行っているが、今までに事例がなく、ターミナルケアの指針や契約文書はない。  | ○    | 利用者や家族からターミナルケアについて要望があった場合、事業所としてどう対応するかを話し合い、指針を文章化しておくことが望まれる。 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>   |    |   |  |      |   |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>             |    |   |  |      |   |
| <b>(1)一人ひとりの尊重</b>                 |    |   |  |      |   |
| 20                                 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 法人主催の研修会で、個人情報の保護やプライバシーの保護について学んでいる。また、利用者の尊厳を守るため、言葉かけの段階から注意している。                               |      |   |
| 21                                 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | 大まかな食事の時間帯はあるが、特に決められた1日のスケジュールはない。利用者の気持ちを大切に、メリハリのある生活ができるよう心がけている。                              |      |   |

| 外部                                   | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                    |
|--------------------------------------|----|---|---|------|--|
| 22                                   | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 最近ADLも低下してきているが、本人の能力に合わせて、準備や後片付けをしている。4ヶ所のテーブルに分かれて、職員と一緒に会話をしながら同じ物を食べ、とても家庭的な雰囲気である。          |      |  |
| 23                                   | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | ゆったりとした浴室で1人浴と3人浴があり、全員夕方の時間帯で入浴できるよう配慮している。希望する人は毎日、基本的には2日に1回入れるようにしている。                        |      |  |
| <b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b> |    |   |   |      |  |
| 24                                   | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 毎朝新聞を遠くまで取りにいたり、食後のトレイ拭き、裏の白い広告を集めるなど、自分の役割を持っている。月に5回ボランティアの訪問があり、楽しみにしている。                      |      |  |
| 25                                   | 61 | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | すぐ近くにお店や人家がないため、広い敷地内を散歩することが中心である。老人ホームやデイサービスとの合同の行事に参加するため、外出の機会がある。ADLの低下により、日常的な外出に機会が減っている。 | ○    | 利用者のADLも低下しているが、散歩や買い物など、できるだけ1日1回は外気に触れる機会をつくってほしい。 |
| <b>(4) 安心と安全を支える支援</b>               |    |   |   |      |  |
| 26                                   | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 外へ出て行こうとする利用者もいるが、日中鍵をかけないケアに取り組んでいる。出て行っても敷地が広く、安全で閉塞感がない。                                       |      |  |
| 27                                   | 71 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている      | 緊急時のマニュアルがあり、連絡先も貼られている。消火器が設置され、消防への通報装置が設けられている。災害時に自治会の協力は得られるが、避難訓練はまだ実施されていない。               | ○    | 昼間や夜間の避難訓練を、消防や地域と協力して実施されることが望まれる。                  |

| 外部                         | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                    |
|----------------------------|----|---|--|------|--|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |    |   |  |      |  |
| 28                         | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | バランスよい献立が考えられ、手づくりの家庭的な味付けで、利用者は食事を楽しみにしている。ほとんどの人が、自分のペースで自力で食べている。食事や水分の摂取が個々に記録されている。       |      |  |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり    |    |   |  |      |  |
| (1) 居心地のよい環境づくり            |    |   |  |      |  |
| 29                         | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間はゆったりとして天井も高く、食堂には使いやすいテーブルや椅子、ソファが設置されている。床暖房があり、冬は適度な温度となる。ホーム内にもう少し季節の花があれば、さらに良いと思われる。 |      |  |
| 30                         | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                   | 大きな押入れがあり、ほとんどの荷物を中に入れて、整理することができる。ベッドも最初から備え付けられているので、利用者の持ち込みが少なく感じられ、部屋の個性が少ないように思われる。      | ○    | 居室がより個性的で、居心地良いものになるように、事業所の工夫と家族に対する積極的な働きかけを期待したい。 |